



報道関係者 各位

『平野屋新田会所跡総合調査報告書』刊行記念  
～ 平野屋新田会所の歴史的価値を知る ～  
**シンポジウム「未来につなぐ新田開発の遺産 2023」を開催**  
12月23日(土)午後1時～ 大東市立総合文化センター

大東市は、今年3月に『平野屋新田会所跡総合調査報告書』を刊行しました。このたび『報告書』の刊行を記念し、12月23日(土)に、シンポジウム「未来につなぐ新田開発の遺産 2023」を開催します。

平野屋新田会所跡(大東市指定史跡)は、江戸時代中期に行われた深野池の新田開発を象徴する歴史遺産です。大東市発展の基礎となり、大阪平野の発展に寄与した重要な学術的価値を持つ文化財として大東市指定史跡に指定されています。(次頁参照)

今回のシンポジウムでは、『報告書』の成果をもとに、「平野屋新田会所跡」や関連文化財群の歴史的価値について詳しく説明するとともに、これからの保存と活用について考えます。

大東市は、「エリアの価値を高める都市整備と都市空間の創出」を重点施策に掲げ、文化・歴史に対する市民の誇りの醸成と次世代への継承に取り組んでいます。今回のシンポジウムも、その取り組みの一つで、多くの人に深野池新田開発の歴史を知ってもらい、歴史遺産の保存などに対する関心を高めてもらう機会にしたいと考えています。



△大東市指定史跡「平野屋新田会所 千石蔵跡・道具蔵跡・船着場跡・周濠跡」

日時 : 令和5年12月23日(土)  
午後1時～4時30分 (30分前開場)  
場所 : 大東市立総合文化センター  
多目的小ホール (大東市新町13-30)  
主催 : 大東市、大東市立歴史民俗資料館、  
平野屋新田会所市民サポーター会議

## 内 容

- ・報告 佐々木拓哉(大東市)「平野屋新田会所跡と関連文化財群の保存・活用に向けて」
- ・講演① 岡村喜史(大東市史編纂委員)「深野池の開発と平野屋新田会所の役割」
- ・講演② 藪田貫(兵庫県立歴史博物館館長)  
「平野屋新田会所跡が語るものービフォー・アフター」
- ・パネルディスカッション コーディネーター 網伸也(近畿大学教授)

## 参考：深野池の新田開発と平野屋新田会所跡

現在の大東市の市街地付近には、江戸時代まで深野池という池が広がっていました。宝永元年(1704)の大和川付け替え工事にもない干上がった深野池の跡地では、約323ヘクタール(甲子園球場約84個分)の土地が開発され、今日の大東市の発展の原点となりました。

平野屋新田会所は、享保6年(1721)に大坂の両替商・平野屋又右衛門が所有権を得た深野南新田(大東市平野屋・谷川・南新田)と河内屋南新田(東大阪市元町)の管理・運営のために設けられた施設で、年貢の集積や住民の管理、武家の接待等に使われました。

平野屋新田会所の建物は平成 20 年に失われましたが、大東市が公有化した千石蔵(米蔵)・道具蔵・船着場・周濠の遺構が残る跡地の一部が市の史跡に指定されています。

大東市は、平野屋新田会所跡を中心とする「深野池新田開発関連文化財群」の一体的な保存・活用方法について、学識経験者や市民の意見を聞きながら、検討を進めており、令和6年3月末には「市史跡平野屋新田会所跡保存活用計画」を策定する予定です。

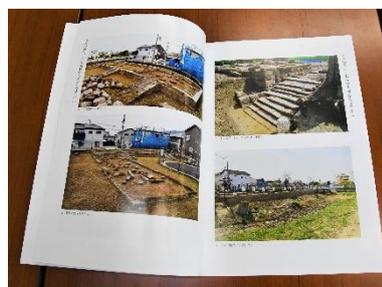


1980年頃の平野屋新田会所千石蔵

## 参考：平野屋新田会所跡総合調査報告書

大東市発展の基礎となった深野池の新田開発の歴史と平野屋新田会所に関して、考古学・文献史学・建築史・民俗学・美術史等の幅広い調査成果と論考を収録した報告書です。

販売場所 大東市役所市民情報コーナーなど  
販売価格 2,000円  
サイズ A4判  
ページ数 300ページ  
発行 大東市産業・文化部生涯学習課



【お問い合わせ先】 大東市 産業・文化部 生涯学習課 担当:佐々木

TEL:072-870-9105 FAX:072-870-9687